

登録番号 第 22209 号

アフェット®フロアブル

- うどんこ病、灰色かび病、菌核病など、幅広い病害に優れた効果を示します。
 特長： ●既存の薬剤耐性菌にも有効で、優れた予防効果があります。
 ●収穫前日数の短さ、作物への薬害が少ないことから、多くの農業生産者から支持されています。

アフェットは三井化学クロップ&ライフソリューション（株）の登録商標です。

有効成分	ペンチオピラド（化管法第1種）・・・20.0%	包装	100ml×60 500ml×20
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	3年（100ml×60は4年）
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

2024年3月27日付内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数
小粒核果類	灰星病 黒星病	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
未成熟 とうもろこし	紋枯病	2000倍	100～ 300L/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内
もも	灰星病 黒星病	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
初刈	灰星病 黒星病	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
おうとう	灰星病 幼果菌核病	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
なし	黒星病 赤星病 うどんこ病	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
りんご	黒星病 赤星病 うどんこ病 斑点落葉病 褐斑病 モリ病 黒点病 すす点病 すす斑病	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
かんきつ	灰色かび病 そうか病	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
かき	落葉病	2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数
ぶどう	灰色かび病 晩腐病 黒とう病 うどんこ病 褐斑病 さび病	2000 倍	200～700 L/10a	収穫7日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
キャベツ	菌核病 株腐病 根朽病 灰色かび病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
はくさい	黒斑病 白斑病 菌核病 尻腐病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
はなやさい類	菌核病 黒すす病 根朽病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
にら	白斑葉枯病 さび病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
	白絹病	1000～2000 倍	0.5～1L/m ²			株元灌注	
	黒腐菌核病					2000 倍	
にら (花茎)	白斑葉枯病 さび病 白絹病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
エンダイブ	すす枯病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
しそ	灰色かび病 斑点病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫3日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
しそ (花穂)	灰色かび病 斑点病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
つるな	菌核病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
セリ	斑点病 菌核病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
しょうが	白星病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
にんじん	黒葉枯病 白絹病 うどんこ病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫7日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数
アスパラガス	茎枯病 褐斑病 斑点病	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内
にんにく	さび病 葉枯病	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (種球塗沫は 1回以内、 散布は3回以内)
	黒腐菌核病	原液	種球重量の 0.5～1.0%	植付前	1回	種球塗沫	
しゅんぎく	葉枯病	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
きゅうり	灰色かび病 菌核病 うどんこ病	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
メロン	つる枯病	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	うどんこ病	2000～4000倍					
すいか	菌核病 つる枯病 うどんこ病	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
かぼちゃ	うどんこ病 つる枯病	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
ズッキーニ	うどんこ病	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
にがうり	うどんこ病	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
ししとう	灰色かび病 うどんこ病 黒枯病 斑点病	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
いちご	灰色かび病 うどんこ病 輪斑病	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
オクラ	灰色かび病 うどんこ病	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
トマト	灰色かび病 菌核病 葉かび病 すすかび病	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	うどんこ病	2000～4000倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数
ミトト	灰色かび病 菌核病 斑点病 葉かび病 すすかび病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	うどんこ病	2000～4000 倍					
ピーマン	灰色かび病 黒枯病 斑点病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	白絹病		1L/株			株元 灌注	
	うどんこ病	2000～4000 倍	100～300 L/10a			散布	
なす	灰色かび病 菌核病 うどんこ病 すすかび病 褐色斑点病 褐色円星病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
ねぎ	白絹病 黒腐菌核病	1000～2000 倍	1L/m ²	生育期但し、収 穫 14 日前まで	2 回以内	株元 灌注	4 回以内 (株元灌注は 2 回以内、 散布及び 無人航空機散布は 合計 2 回以内)
	さび病 黒斑病 小菌核腐敗病 白絹病 葉枯病 小菌核病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	
たまねぎ	灰色かび病 灰色腐敗病 小菌核病 黒腐菌核病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	4 回以内	散布	4 回以内
レタ	灰色かび病 菌核病 すす枯病 白絹病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
非結球レタ	灰色かび病 菌核病 すす枯病 白絹病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
パセリ	うどんこ病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
食用さくら (葉)	うどんこ病 せん孔褐斑病	2000 倍	200～700 L/10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数
食用ぎく	灰色かび病 うどんこ病 白さび病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
豆類 (種実、ただし、 だいず、らっかせ いを除く)	灰色かび病 菌核病 さび病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
豆類 (未成熟、ただ し、えだまめを除 く)	灰色かび病 菌核病 さび病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
だいず	灰色かび病 菌核病 さび病 うどんこ病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
えだまめ	灰色かび病 菌核病 さび病 うどんこ病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
らっかせい	白絹病 灰色かび病 菌核病 さび病 褐斑病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
小麦	赤さび病	2000 倍	60～150 L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
てんさい	根腐病	200～400 倍	ペーパーポット 1 冊当り 1L (3L/m ²)	移植前	1 回	苗床 灌注	4 回以内 (苗床灌注は 1 回以内、 散布は 3 回以内)
	根腐病 葉腐病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	
とうき	苗立枯病	500～1000 倍	セル成型育苗ト レイ 1 箱 またはペーパー ポット 1 冊 (30×60cm・ 使用土壌約 1.5～4.0L) 当り 0.2L	育苗期	5 回以内	灌注	5 回以内
とりかぶと (薬用)	白絹病	1000 倍	1L/m ²	生育期	3 回以内	株元 灌注	3 回以内
たばこ	菌核病	2000 倍	100～180 L/10a	収穫 10 日前ま で	2 回以内	散布	2 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数
花き類・観葉植物 (きく、ゆり、チューリップ、りんどうを除く)	灰色かび病 うどんこ病	2000倍	100~300 L/10a	発病初期	3回以内	散布	3回以内
チューリップ	灰色かび病 うどんこ病 褐色斑点病	2000倍	100~300 L/10a	発病初期	3回以内	散布	3回以内
りんどう	灰色かび病 うどんこ病 花腐菌核病 褐斑病 黒斑病	2000倍	100~300 L/10a	発病初期	3回以内	散布	3回以内
きく	灰色かび病 うどんこ病 白さび病	2000倍	100~300 L/10a	発病初期	3回以内	散布	3回以内
ゆり	灰色かび病 うどんこ病 葉枯病	2000倍	100~300 L/10a	発病初期	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数
きゅうり	温室、ガラス室、ビニールハウス等の密閉できる場所	うどんこ病	150g/10a	10L/10a	収穫前日まで	3回以内	常温煙霧	3回以内
なす	温室、ガラス室、ビニールハウス等の密閉できる場所	すすかび病	150g/10a	10L/10a	収穫前日まで	3回以内	常温煙霧	3回以内

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 使用前によく振ってから使用すること。
- (3) 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用すること。
- (4) 空容器は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (5) ぶどうの幼果期（小豆大）以降の散布は、果粉が溶脱するおそれがあるので使用をさけること。
- (6) にんにくの種球に塗抹する場合は、処理後、風乾した後に植付けを行うこと。
- (7) ハウス等で常温煙霧に使用する場合は以下の注意事項を守ること。
 - 1) 常温煙霧中は室内へ入らないこと。
 - 2) 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧すること。特に常温煙霧装置の選定及び使用にあたっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けること。
 - 3) 作業はできるだけ夕刻行い、作業終了後6時間以上密閉すること。できれば翌朝までそのままとし、開放後十分換気してから入室すること。
- (8) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (2) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 常温煙霧中はハウス内へ入らないこと。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室すること。
- (4) 塗沫の際は不浸透性手袋などを着用すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

水産動植物（魚類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。